

# とうきょうすくわくプログラム 活動報告書

学校法人精心学園  
せいしん保育室ビーオンクローバー  
2024年8月～2025年3月

## 1. 活動のテーマ

「 自然あそび 」

## 2. 活動のねらい

◎当施設は、徒歩ですぐに八国山へ行けるほか、幼稚園のバスを利用して遠方の公園まで足を伸ばすこともできるため、こどもたち自然に多く触れられる機会を多く持てるという特色を持っている。この利点をしかし、「自然遊び」をテーマに設定し豊富な自然体験を通して感性や探求心を育むことをねらいとしました。

◎子どもたちが本物の自然に直接触れられるよう、戸外での活動を大切にしています。

そこで得られる経験を通じて子どもたちの自然に対する興味や探求心をさらに深めることをねらいとしています。

### 3. 活動の内容

#### ①活動スケジュール

7月より準備を始める。

準備内容⇒個人の観察ケースを用意する

図鑑、絵本、自由画帖、クレヨンの準備

②導入⇒虫や植物の絵本や図鑑を用意し興味関心を高める。

③実践 7月～3月にかけて行う"

散歩の際に一人ひとり観察ケースを持ち、虫探しや木の実などの採集を行う

## <実践内容>

- ◎精心幼稚園から徒歩で行ける八国山に散歩の出かけ、虫探しや木の実など自然物に触れる活動を行った。
- ◎一人ひとり観察ケースを持ち思い思いに虫や、木の実を探しケースに入れ観察をした。
- ◎個人の観察ケースを使うことでじっくりと自分のペースで観察が出来るようにした。
- ◎ケースに入れたものを保育士や、友達に見せたり、発見した場所を共有したりする姿も見られた。
- ◎保育室へ帰園後、虫や木の実の写真を掲示したり、図鑑や絵本を用意し、実際に観てきたものの照らし合わせが出来るようにした。
- ◎保護者へ、活動の様子を動画やおたよりを通して伝えた。

## ＜子どもたちの様子＞

- ・ 山を登る途中や、広場で虫探しをし、ケースの中に入れじっくりと観察をした。

見つけた物を保育者や友達に知らせていた。

- ・ あきることなく、虫を懸命に探し、虫のいる場所はどこか考えようとする姿もあった。
- ・ 個人のケースを持つことで、「虫をさがす」「実をみつける」などをそれぞれ意識した活動をしていた。普段よりも、「この虫なにかな」「せんせい、虫いたよ！」という声が多く聞かれた。
- ・ 保育室へ帰園後、すぐに虫や、木の実の写真を観たり、図鑑や絵本を見たりすることで、虫や木の実の名前を知り、観てきた物と一致させることもできていた。  
また、観てきた物をクレヨンで自由画帖に描こうとする姿もあった。

#### 4. 子どもたちの気付き・学び

- ・ 虫や木の実、葉っぱなど身近な自然に触れる中で、「これはなんだろう？」「こんな色してるんだ！」といった発見が生まれ、より興味が深まり、自然そのものに対する興味関心の広がりに繋がった。
- ・ ケースの中にいる虫や木の実をじっくりと観察することで、「うごかなくなったけどどうしたのかな」「このみはどこにあったの？」などの問いが生まれていた。
- ・ 見つけた物を見せたり、一緒に探したりする中で、発見の喜びを共有する楽しさを感じていた。
- ・ 自然の中での自由な探索活動により、子どもたちは「自分でみつけた」という成功体験を得ることが出来た。

## 5. 今後の展開

- ・ 四季をとおしての自然物の変化の様子を順を追って観察で出来るような環境設定をする。
- ・ 虫や木の実だけでなく、自然の中にある子どもたちが「今までは気づかなかったもの」に出会えるような関わりを大切にしていこうとする。
- ・ 掲示や写真、子どもたちが描いたの絵などを通して、家庭でも自然への興味がつながるような取り組みを進めていく。

## 6. まとめ

- ・ 散歩先の八国山では、虫や木の実、草花などに目を輝かせながら自然の中に溶け込むように探索する姿が印象的だった。
- ・ ひとり一人がケースを持つことによって「観察する」という意識を引き出すことが出来た。
- ・ 虫や木の実だけにこだわらず、その子が見つけたものや思いを大切にするようにし、子どもたち一人ひとりが満足の行くまで探求心を深めることが出来た。
- ・ 気の葉の色や、触った感触、実の数の変化、虫の生息状況などが変わっていくことにも気づき、「秋になってきたね」「もうすぐ冬だから虫さんがいなくなってきたね」など五感を使って季節の移り変わりを体感していた。活動を通して継続的に自然とふれあうことから子どもたちも学び、探究心や感性がすくすくと育まれたと思います。